

多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会 第3回

日 時： 平成28年8月29日（月）午後6時10分から9時04分まで

場 所： 多摩市役所 西会議室

出席者： （基本構想策定委員）柳田委員長、松本副委員長、常世田委員、鈴木委員
寺沢委員、尾中委員、千葉委員、青木委員、辻山委員

欠席： 大澤委員

（事務局）清水教育長、福田教育部長、中島図書館長、笹原主査、
阿部企画運営係長、栗崎サービス係長、村野子ども読書支援係長
阿部関戸・東寺方図書館長、大田永山・聖ヶ丘図書館長、
福島主事
コンサルタント2名

○ 開会

委員長： 本日は大澤委員より欠席の連絡が入っている。
他委員が出席して定数に達しているため、第3回多摩市立図書館本館再構築
基本構想策定委員会を開催する。

（配布資料確認）

○ 報告

1. 分館3館1分室（関戸・東寺方・聖ヶ丘・行政資料室）の視察を終えて

委員長： 前回に続き、本日の策定委員会開催前に、関戸図書館・東寺方図書館・聖ヶ
丘図書館と行政資料室の3館1分室を視察した。多摩市の分館をすべて見たこ
とになる。ひとつの自治体でたくさんの図書館を持っているわけだが、それぞ
れに個性のある図書館だった。皆さんに感想を述べていただきたい。

委員： どの図書館もリタイアした年代や親子連れなど、利用者が多い。多摩市の図
書館は同規模自治体よりも利用率が高い。視察は平日の日中だったが、利用の
様子に現れているように感じた。

企画展示などの工夫は一般的な図書館よりも職員の努力が感じられる。

東寺方図書館は施設の老朽化が目立つが、利用は多い。新しくなればもっと
利用されるだろう。リニューアルも重要な課題。

資料が返却された図書館に配架されるしくみなので、利用者との関係性にお
いて、全体の蔵書バランスと資料管理をどうしていくか、今後の課題となるだ
ろう。

委員： 地域図書館が地域の皆さんによく利用されている。図書館員もうれしいので
はないか。

それぞれの図書館で、使い勝手をよく考えて本の配置が工夫されていること
がわかった。子ども向けコーナーもスペースを確保してきちんと作られている
。実際に子どもが使っている様子も見ることができた。小さい子どもが図書
館に親しむ、使われているというのは重要なことだと思う。

新聞もよく揃っている。福島民報や福島民友などの地方紙もあった。福島で
あれば原発関連などの問題に詳しく、全国紙とは違う視点がある。図書館の特
色として柱にしてはどうか。そのうち、多摩市に居ながら故郷の新聞も読める

- かもしれない。
- 副委員長： 大学の仕事の都合で視察には参加できなかったが、先週ひとりで各館を見せていただいた。それぞれに工夫があってよいと感じた。
- 委員： 東寺方図書館は豊ヶ丘図書館と同様に施設の老朽化が目立つ。行政資料室について、所管はどこなのか、ここに配架されていない資料はどこにあるのかなど、いくつか疑問を持ったので確認しておきたいと思う。
- 委員： 前回の視察でも感じたが、館長の説明が適確でわかりやすかった。図書館に愛着を持って臨んでいることが、よくわかった。とてもありがたいことだと思う。
- 委員： 拠点館と地域館がそれぞれに違いがあり、使われ方も違い、補い合っているように感じた。
- 委員： 行政資料室で現在配架されている資料は良いとして、多摩市で出版しているもので売れるものは販売すればよいと思う。中央館で販売コーナーが作れるとよいと思う。パルテノン多摩では値段を表示して売っている。
- 委員： まちづくりの視点から見ると、人口年齢構成の問題が顕在化しているように思う。関戸図書館や東寺方図書館の周辺地域は既成市街地で、全国平均とほぼ同じ人口年齢構成となっていて、バランス良くいろんな年齢層の方が利用している。聖ヶ丘図書館は高年齢層が多い地域で、利用者に現れているように感じた。
- 委員： 施設について、関戸は3週間前にクリーニングが入ったということだが、手入れが行き届いている。東寺方の床のフローリングは最近では高価で使えないパーケットフロアで、サンダーをかけてクリア塗装をかけると見違えるほど綺麗になる。聖ヶ丘はコミュニティセンターとの複合で床はカーペットタイル、児童コーナーでの音の問題について視察中に話題になったが、床材が吸音している。違う材料であればもっと反響しているだろう。壁も吸音できる材料に変えると効果がある。
- 委員： 仕事の都合で視察に参加できなかったが、地域館をいくつか見せていただいた。各学校から出ている夏期休業中の課題や二学期の調べ学習を把握してもらっていて、夏休み中に、生徒が継続的に利用させていただいている。
- 委員： 今日、会議で杉並区の図書館が隣接している学校に行った。多摩市と同じように老朽化が問題となっているようだ。
- 委員： 関戸図書館は普段利用しないので久しぶりに行った。月曜で休日ではないのに利用者が多い。いろんな年代がいて、夏休み中ということもありお母さんが子どもに読み聞かせをしている姿も見られた。本を減らして利用しやすい高さに配置したり、テーマ展示やコーナー展示をして利用者を引きつける工夫をしていた。開館して32年経っていて、施設の老朽化が見られる。多摩市で初めて民間施設に入った図書館で、ショッピングエリアの奥にある。空き店舗がいくつかあり、図書館と同じフロアにも書店があったのだが、撤退してしまって大きな空きスペースがあり、あまり印象が良くない。図書館があることでショッピングエリアが活性化して、相乗効果が出るようになると良いのだが。
- 委員： 東寺方図書館は嘱託職員のみでの運営だが、テーマ展示があちこちにあり職員の方が感じられる。児童コーナーには絨毯コーナーがあり子どもが本を読めるスペースになっている。利用は少なくなっているようだが、職員の方で使いやすい図書館になっている。
- 委員： 聖ヶ丘図書館は窓が大きく明るい。年数が経っても居心地のよい図書館。
- 委員： 行政資料室は、ここ数年で配架の変更がされていることに気づいた。各課ごとの配置になり市職員に利用しやすいよう工夫している。棚の上部から資料を除籍して明るくしたとのことだが、かつて12,000冊あった蔵書が9,900冊になった。行政資料は大切なのでストックしてあればよいのだが。

地域資料は本館へ移設したということだった。市民活動資料もあるが、入口側に置いてあったものが奥へ移動した。本館ができれば本館にも置いてほしい。市民団体が活動しているところの近くにも置いてあれば、使いやすいと思う。

委員： 関戸図書館では、座席のメンテナンスや大型本が増えて配架しにくいこと、普段聞けないような苦勞されていることなどを伺った。月1回、活動室を利用してボランティアであかちゃんおはなし会をやっている。マットや敷物などを持ち寄り、あかちゃんがおはなしを聞けるように工夫しているが、机があることで安全性に不安なことがあったこともある。

聖ヶ丘は普段活動の拠点にしている図書館で、良いも悪いも含めて大好きな図書館。皆さんに見てもらったことがうれしかった。あかちゃんおはなし会は図書館の中ではなく、下のフロアでやっている。安全に楽しく利用するには、今後工夫が必要だと思う。

委員長： 委員の皆さんの話をまとめると、現場の方がよくがんばっておられる。各図書館がよく利用されている。分館それぞれ特色があるけれど、老朽化の問題はある。地域によって利用者の年齢構成の違いがあると感じられたようだ。

辻山委員から聞いたが、おはなしコーナーの利用と一般利用者との調整が難しいようだ。昨今は図書館に限らず、保育園問題や文化施設で子どもの声がうるさいというクレームはよく起こっている。広くないスペースなので子どもがはしゃいだりする声と調べ物をなどをする利用者がバッティングしてしまう。運営の問題というより、時代の変化や高齢者が多くなると増えてくる問題。

行政資料室のあり方、利用の促進や販売について意見があったが、各論の検討へ反映させていきたい。

委員が各図書館の個性と利用傾向をつかめて良い視察となった。今後、議論に活かしていきたい。

2. 傍聴者用資料の取り扱いについて

事務局： 傍聴者用資料の取り扱いについて、傍聴者を20名と定員を定めているが、その方の持ち帰りは可能とする。小さな訂正がある場合は、ホームページや図書館での閲覧資料を確定版とするので、資料は委員会を傍聴する参考として使用していただく。大きな訂正がある場合は回収することもある。この委員会については、このような決まりとさせていただきたい。

委員長： 回収するような場合というのは、例えば個人情報等を誤って掲載してしまった等の特別なことか。

事務局： そういったことを考えている。

委員長： 各委員、意見はあるか。(なし)

策定委員会としては、傍聴者の資料が持ち帰りができるようになったということで、了承をしたい。

3. 策定委員会の構成と進め方について

委員長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： 資料1をご覧ください。7回の委員会の進め方は変更していない。右側に本日の委員会の内容が記載されている。

今回は「図書館の現状と課題」の3回目となっている。これまで様々な意見を頂いて議論を拡散させてきたが、今後は収束させていくという形にしていきたい。次回からは構想の素案などを見ていただければと考えている。前回に引き続きヒアリングの報告を行い、議事で残っている拠点館の役割や方向性について意見をいただきたい。後半は図書館の運営について、コスト・人員の推移分

析や他自治体との比較などを説明する。次回以降の議論の材料としたい。

ヒアリングは図書館の個別サービスやボランティアなどについて、今後も行っていき、委員会に報告をしたい。

○ 議事

1. 多摩市の図書館の現状と課題 III

(1) ヒアリング結果の報告

委員長： 事務局から説明をお願いします。
事務局： 資料2-1をご覧ください。

(地域館の存続を考える4会ヒアリング)

1 ページ目、8月9日に地域館の存続を考える4会のヒアリングを行った。参加は19人。前回策定委員会の資料「わたしたちの図書館をなくさないで」という市民情報誌を作成された方々で、その団体を総称して4団体と言うことが多い。

ヒアリングの話題として『わたしたちの図書館をなくさないで』をかえりみて「新中央図書館について基本構想策定委員会につたえたいこと」ということを設定して始めたが、そもそも「4館廃止のプランが未だに理解できない」という意見や、市民との話し合いを聞く姿勢への疑問などが寄せられた。地域館の廃止に反対があったことを受けて、行動プログラムの見直しでは「4館廃止をいったん立ち止まって市民の皆さんと考えていく」ということになっている。そういったことから「地域館にどのようなものを求めるか」とお聞きしたところ、

- ・まずは地域館廃止に反対したところまでだった。
 - ・地域館に必要な機能は、今後協働して分析を進めていきたい。
- というような意見があった。主な意見を紹介する。
- ・地域図書館の廃止方針を聞いて、これを再考してもらうことに集中してきた。地域館の将来像はすぐには判らないが、これに地域住民が関わり、考えていくかたちが必要だと思っている。
 - ・市民アンケートでも、上位に図書館が大切という客観的データがあった。その資料に続けて、図書館地域館の縮減という反対の政策が出て来るのか、いまも理解できない。
 - ・地域図書館が先にあってこそ、中央館や多摩市の図書館システムがあると策定委員会に伝えて欲しい。
- 地域包括支援センターの複合をからめるということがよくわからない、という意見もあった。

- ・図書館は生き物で、成長するか退行するかだと話しがあった。聖ヶ丘図書館に寄せられた熱烈な市民意見は、歩いてゆける身近な、成長も退行もなく横這いの姿でよい。
- ・中央館ができた後も、本の量が縮小されても、地域図書館がもっと魅力的、専門的に利用者を引きつける場所にできないか。
- ・図書館協議会の答申のように、中央館を補完する地域館ではなく、地域館を支援する中央館、という図書館システムでありたい。
- ・車を持たぬ複数の子供の母として、児童館や福祉館と並んだ地域図書館に通って隣人に交わり、地域について学ぶ喜び。地域図書館に最後まで通い人生を全うした親を見守った思い。
- ・図書館地域館ごと、ファンクラブ、友の会も必要かもしれない。
- ・唐木田図書館を利用しているが、市の直営に戻してほしい。

- ・唐木田図書館は委託で運営している。経費削減の大方針の中、その効果と利用評価を基本構想策定委員会で確認して欲しい。市民に近い地域図書館こそ顔の見える行政の直営が相応しい。

(多摩市の社会教育を考える会ヒアリング)

3 ページ、8 月 25 日に多摩市の社会教育を考える会のヒアリングを行った。参加は 5 人。地域図書館の存続を考える 4 団体と関わりが強く、4 団体にも参加している会員が多い。社会教育施設のひとつとして地域図書館を主題とした活動をしている。図書館以外にも公民館や社会教育、市民活動について研究されている。

「これまでの会の活動と考え方について」主な意見を紹介する。

○地域図書館について

- ・「地域館を中心として中央館はそれを支えるかたち」であってほしい。
- ・地域館には、貸出だけでなく、ある程度の本が配架されていてほしい。
- ・高齢化していく。身近に歩いて行けるところに図書館があるのは重要。子どもにも大切。
- ・市民運動のアーカイブも保存してほしい。

○本館について

- ・参考資料と調査スペースがあるとよい。
- ・財政的な問題で本館の充実に予算がかかるなら、本館よりも地域館を重視したいという意見がある。

これらの意見に対して、事務局から発言をして

→本来あるべき中央館の形になっていけば強力なマグネットになり、利用者は使うようになる。(今はあまり身近でないので想像がしにくい)

といったやりとりがあった。

「多摩市本館再構築基本構想策定委員会に伝えたいこと」について

○地域館のこれからのあり方

- ・聖ヶ丘図書館の企画展示がとても良い。健康と生活に関する課題解決の企画は関心を持たれているようだ。地域館では、地域包括支援センターとの複合案があるが、ランチ機能だったら考えても良いのではないか。
- ・開館時間を短縮しないでほしい。

この意見に対して、

→開館時間の検討、自動貸出機の導入など職員配置が軽減できる工夫もある。という事務局から発言をして、やりとりがあった。

○新中央館のあり方

- ・少しでも魅力が上がるよう、図書館単独館でなく、塩尻の図書館などのように公民館の併設なども考えてはどうか。
- 塩尻は市民活動支援などの複合だが、そういった意見があった。

○専門職の育成・研修について

- ・嘱託職員の待遇、専門性が育つしくみも考えたい。
- 現在の体制では、職員が顔を合わせる機会が少ない。
→専門職集団となれるようにしていきたい。
ということ事務局からも話をして、意見交換があった。

○図書館計画や活動における「市民協働のかたち」

- ・地域図書館が存続されることになったが、今後どのように存続させていくかは勉強を進めたい。
- ・市民の情報誌第 2 段では、図書館員の力も借りながら「こんな図書館を求めている」ということをまとめていきたい。

(多摩おはなしの会ヒアリング)

4 ページ、8月25日に多摩おはなしの会ヒアリングを行った。参加は7人。図書館のおはなし会でボランティアとして活動していただいている団体。これまでの「おはなしの会」の活動について

- 「多摩おはなしの会」の活動について
 - ・むかしばなしを中心とした語りを勉強している。
- 図書館との活動について
 - ・関戸図書館で月2回おはなし会を行っている。図書館職員も参加している。
 - ・秋色おはなし会
 - ・ほんともフェスタのおはなし会
- 図書館とのかかわりについて
 - ・おはなし会をボランティアにまかせっきりの状態があった。図書館といっしょにやりたいと、こちらからお願いして図書館員が立ち会うようになった。
 - ・多摩市はいろんな団体が活発に活動しているが、図書館員の活動が見えてこない。専門職として主体的に方向性が示せないのだろうか。
 - ・本館のおはなしコーナーは、カーテンで仕切られているだけで外の音が入ってくる。

これからの「おはなしの会」の活動について

- 支援してほしいこと、協働するために考えたいこと
 - ・コーディネートをしてほしい。
図書館、学校や保育園などでおはなし会を行う機会を増やしたい。図書館が学校につなぐなど、橋渡しをしてほしい。おはなしに触れる機会を増やすことで、子どもが図書館に帰ってくる。
 - ・ストーリーテリングやわらべ唄の講座を定期的に行ってほしい。
 - ・図書館員とともに勉強会を行いたい。
- 基本構想策定委員会に伝えたい「新中央館に望むこと/地域館にのぞむこと」
 - ・子どもが落ち着いておはなしを聞ける独立した部屋がほしい。
 - ・配架を考え直して、資料が揃うようにしてほしい。
どこの館でも返却できるが、資料の位置が固定されていないので揃わないものがある。
 - ・いまの図書館では子どもの本が出版社別に配架されている。→わかりにくいという意見だろう。
 - ・地域館の図書館員はベテランにしてほしい。
 - ・職員が数年で異動してしまうと協働してきた活動がいったん途切れる。
 - ・しっかりとした専門職がいてほしい。もっと研鑽を。
 - ・おはなし会の企画なども、頼りきりでなく、図書館で何ができるか考えてほしい。

(行政管理課等職員ヒアリング)

5 ページ、8月1日に行政研究会と称して、多摩市企画政策部・総務部・教育部など、行動プログラムや人事政策に関わる部署が集まって、本館再構築基本構想に共通認識を持つため、意見交換をした。

- 「多摩市の図書館の状況と課題」について
 - ・唐木田図書館の立ち上げで職員不足に直面した。
その後「行動プログラム」があり、図書館全体像の再構築案が必要ということで、策定委員会に様々な意見を頂いているということを説明した。
- 「図書館政策自体の見直し方針と行動プログラム」として読み替えると

01. 全市的な行政改革の必要性の認識
 - ・行財政診断白書(H16)をもとに、今後の施設更新負担と職員経費には、税収的、財政的な不足が危惧されることを、議会や市民に説明してきた。このころから危機感をもってやってきたということ。
 - ・人口減から始まる社会縮小スパイラル化への順応政策方針だけでは、多摩市の魅力が出てこない。
02. 現状図書館経費の74%が人件費
 - ・再任用や臨職雇用、管理委託の編成で状況に対応してきている。
 - ・常勤職員の高齢化で、後進の計画的採用補充も長期的に必要。
03. 図書館施設の建替え更新の、建設費用の展開と対応目算
 - ・直接発注という形式もあるが、PFI方式を検討し、債務返済の長期化やビル管理の効率化を考えている。
05. 新本館の専門的計画/設計
 - ・設計案作成と合意形成に図書館員と市民が協働できる工程計画が必要。
- 工程イメージ

枠線があるが、このくらいまでかかるだろうということで、工程は未確定。今後各部署と検討していく。
- 「図書館政策の柱、全市全域平等サービス方針」として地域館の位置づけ
 01. 豊ヶ丘複合施設
 - ・6年後の大規模改修の2～3年ぐらい前から考える必要あり。それまで施設としては現状維持。
 02. 東寺方複合施設
 - ・7年後の大規模改修の2～3年ぐらい前から考える必要あり。それまで施設としては現状維持。
 03. ひじり館、からきだ菖蒲館
 - ・今後地域サービスの拠点となる地域包括支援センターとの併設を市民と意見交換しながら検討していく、と行動プログラム見直し案に書かれている。
- 「図書館新本館の整備と開館にむけての工程計画」
 01. 桜美林大学が示す希望条件
 - ・100周年事業として小中一貫校を考えているが、開校時期、施設再整備の工事着手時期（現図書館本館の移転出タイムリミット）は、確定していない。多摩市の事業工程などと今後、調整協議をしていく予定。
- 添付資料「指定管理図書館を推進させる総務省通知、調査」より
 - ・自治体サービスの民間委託化推進の総務省通知について「直営を選択している場合であっても・・・部分的に指定管理者制度を導入する等、幅広い視点からその管理のあり方について検証すること」とあり、多摩市も検証することになっている。
 - ・総務省通知を推進する調査「指定管理図書館は501館、15.2%の導入率である」「未導入図書館のある自治体1,231」のうち「導入しない、現状のまま」と回答しているところが7割を占めている。

(図書館協議会ヒアリング)

7ページ、8月25日に図書館協議会定例会終了後にヒアリングを行った。「多摩市の図書館の現状と課題」「基本構想策定委員会への助言」というテーマで意見交換を行った。

○学校図書館と公共図書館の連携について

- ・学校図書館は、学校司書を全小中学校に配置しているということだが、図書費はあまり予算がついていなかった。

- ・公共図書館から調べ学習用の新しい本を貸し出してほしい。
これは既に行っているサービスで、更なる拡充を希望されているという意見としてうかがった。
- ・若い先生の活字ばなれも進んでいて、調べ物で文献にあたるのが少ないように感じている。
- 公共図書館にできることを考えたい。自治体によっては図書館から学校司書を派遣する事例もある。市立図書館との人的交流ができるのではないかとといった意見交換があった。
- 新本館について図書館協議会での検討
 - ・図書館協議会では新本館についての議論があまり進んでいない。
 - 新本館について、これからの多摩市の図書館について、図書館協議会委員から意見メモをいただくことになった。
- 基本構想策定段階でのアンケートについて
 - ・広く意見を聴取するべきだが、図書館を利用していない人に意見を聞くのは難しい。
 - ・対象の性別・年代を決めてグループインタビューするような手法もある。(利用していない図書館について聞かれても、あまり発言はないだろうと思う。)
 - ・何を知る目的か、まずテーマを決めることが大切。
- 地域館と拠点館について
 - ・職員の人材育成は大切。中央館にいと組織の一部となって、全体の仕事が変わらなくなる。分館にいと全体を見ることになる。分館こそ経験豊富な職員が運営し、さらに経験を積むと良いのでは。
- 参考資料「多摩市のこれからの地域図書館」

平成27年度第4回図書館協議会定例会資料として、委員の一人から出された文書で、内容については協議会として議論していないが、ひとつの意見として紹介する。

(多摩市図書館職員研修)

図書館員の研修を松本副委員長にお願いした。松本副委員長から報告をお願いしたい。

副委員長：

資料2-2をご覧ください。8月4日、正規職員・嘱託職員なども含めて集まる図書館職員の全体会で研修を行った。テーマは「多摩市の新しい本館のあり方について」

前半は、私から東京都内の公共図書館と多摩市の図書館を比較して、多摩市の図書館はどういう特色をもっているのかということを知った。

後半は「自分が望む、新たな本館のあり方を、短い文章で表現しよう」と題して各自検討したのち、5名前後のグループで議論して共感が多く得られたものをグループごとに発表した。印象に残ったものを紹介する。

- 新たな図書館の理念的な意見
 - ・触発する図書館
電子化された環境では、ブラウジングで得られるような資料との新たな出会いはない。出会い・発見があり知的好奇心が満たされる場
 - ・人と出会える、つながる図書館
 - ・頼れる図書館
 - ・優しい図書館
- 具体的なサービス
 - ・レファレンスの充実

- ・障害者サービスの充実
- ・高齢者向けサービスの充実
- ・児童・ティーンズ向けサービス
- ・IT技術の進歩に対応できる図書館：電子書籍を含めたサービス対応
- ・資料の集中、蔵書の充実：地域資料や視聴覚資料も蔵書構成に重要。
本館に行けば多様な資料がある。

書庫機能についても様々な意見があった。

○ネットワークとして

- ・地域館のバックアップ機能
- ・図書館関係者のネットワークの中心
- ・広報情報発信の中心

研修を行った感想としては、図書館員は経験豊富で、利用者と日常的に接して様々な要望を理解しているということ。一方で、今の多摩市の図書館に囚われているように感じた。他自治体はどんなサービスをしているか、研究が必要だろう。新しい図書館は、少し先にできて、ずっと使われていく。将来的なことに考えを進めるべきだろう。

委員長： ヒアリングの報告、密度が濃くて読むのも大変だが、重要な指摘があった。

ヒアリングに参加された委員がいるが、感想や意見はあるか。

委員： 地域館の存続を考える4会のヒアリングでは、聴き取り内容の事前説明がなくヒアリングに入ったのでとまどったという声を聞いた。これまでの活動の思いなどが伝えられなかったと感じられたようだ。（多摩おはなしの会のヒアリングでは事前に聴き取り内容について連絡があったので、準備ができた。）今まで地域館廃止への反対に注力していたので、ヒアリングを受けたことで今後の地域館について考えるきっかけになったという感想もあった。

委員： 多摩市の社会教育を考える会のヒアリングに参加した。4団体に参加している人もいるが、個人で会のメンバーになっている。社会教育施設を活用している、と考えている会。ヒアリングで出た意見は、社会教育を考える会として集約されたものではなく、個人の意見が出ているので相反する意見もある。

中央図書館を複合にするという意見が出ていた。公民館的機能を取り込むとより良くなるかもしれないというふうに発展的にとらえればよいと思う。公民館は今後なくなっていくかもしれない。まだ答えは出ていないが。コミュニティセンターは各地にあるが、多摩センターには公民館機能の施設がない。

会の名称に「社会教育」とつけていることについても話題になった。社会教育は生涯教育とは違う、名称にこだわりがあると考えている。そういうことも学びながら、新しい図書館や公民館について考えるということが話し合われた。

委員長： ヒアリングの概要とポイントになる意見を説明してもらった。多岐に渡った内容なので、短時間で把握するのは難しい。

(3) 現状と課題のまとめ方

事務局： 次第では後のほうの議事1(3)になるが、資料3をご覧いただきたい。

「現況と課題チャート」としてカルタ形式のシートになっている。これを使って策定委員会やヒアリングでいただいた意見をキーワードで分類・整理をしていきたい。横軸に「資料世界(本)」「図書館員(人)」「図書館施設(場)」「市民利用者(活動)」、縦軸に「地域館」「拠点館」「本館」「ネットワーク」としてマトリックス形式になっている。「表方」というのは利用者向けの内容で「裏方」は図書館運営側の内容を表す。1つのカルタをA4一枚程度の内容にして文章化してまとめていく。今後、同じ形式で計画の方向性のチャートを作っていく。このようなまとめ方でよければ、拠点館の役割と方向性について、議論をすす

- めていただきたい。
- 委員長： ヒアリングで出た意見が多岐に渡っているので、まとめができるのは良いだろう。拠点館について、ヒアリングとかみ合わせてもよいので意見をうかがいたい。
- 副委員長： 現況と課題チャートについて、横軸に「サービス」という項目は入らなくてよいのか。
- 委員長： そうなると、カルタが20枚になり文章化する枚数も増えるということか。
- 事務局： チャートを作成したコンサルから説明をお願いする。
- コンサルタント： 横軸は、図書館の三要素「本・人・場」に加えて「市民」で、サービスは4つの項目全てに網のように架かってくると考えた。それぞれの項目で相関関係を見たいと思う。今日お出ししたのは「現況と課題チャート」だが、課題をひっくり返すと新本館で検討する項目になる。キーワードの仕分けをしたときに困らなければ「サービス」の項目を起こしてもよいかと考える。
- 委員長： 例えば「本」の項目ではサービスを前提に中のキーワードを考えるということか。16枚のカルタはサービスを前提に考えるということなら、多摩市の図書館サービスの総まとめとして全体を俯瞰できるということで、このチャートで良いか。意見をいただきたい。
- 副委員長： うまくまとまるように期待したい。

(2) 新たな本館ができたあと、拠点館の役割と方向性

- 副委員長： 図書館協議会に長く参加しているながら、地域館と拠点館の違いが今ひとつ明確にわからない。もういちど説明をしていただきたい。
- 委員長： 第1回策定委員会でも、同様の質問があった。ざっくりと本館と分館でよいのではないかと思う。多摩市の図書館の成り立ち・組織などでそうなっているのか行政の都合なのか、市民から見ると、永山図書館と東寺方図書館を利用するのに違いは無いのではないかと思う。基本構想では同じように分館として扱い、後から分けて考えてもよいのではないか。
- 事務局： 組織というのは、予算と人があって社会活動や営利活動を行う。組織を維持するにはランニングコストが必要で、活動をするためというよりランニングコストを維持するために収入を得ることを考えることになりがちだ。一度御破算にして、どういう目的で何をやるべきか、逆転の発想で考えるとイメージが出てくる。行政でもそういった検討をする必要があるように思う。
- 事務局： 拠点館、地域館について説明をする。多摩市図書館条例では、本館、分館、分室に分類されている。運営規則ではさらに分けて、
- ・本館は、図書館奉仕の中心館
 - ・分館は、広域的な図書館奉仕を行う拠点館及び地域における日常的な図書館奉仕を行う地域館
- となっている。
- 運営上は親子関係のようになっていて、館長が兼任で応援態勢がある。今後ともそのままではよいかは検討したい。拠点館という名称にこだわることはないと思う。
- 委員長： 条例はいまのあり方を示している。新しい図書館のあり方を検討しているところなので、条例も考え直していくとよいのでは。
- 事務局： 拠点館の説明を補足すると、駅前にあり、他市の分館と比べても規模が大きい。開館時間も長く、蔵書規模も大きい。バスも集まるターミナルにあるので利用のされ方は違う。地域館と分けて考える必要はあるかと思う。
- 委員長： 地域館と拠点館は分けておいて、分館として同じようなこともあるし、各館の特色としてでてくることもあるだろう。そのように考えるようにすればよい

ということにしたい。16枚のカルタをたたき台として、キーワードを捜していけばよいだろう。

委員： 組織ということについて、委員長の考え方に賛成で、チャートの「図書館員」のところは「人」に加えて「組織」を追加すれば良いかと思う。組織そのものの見直しが必要になってきている。

各地にいろんなタイプの図書館組織があって、多摩市は拠点館に地域館がぶら下がるタイプ。千葉市や堺市も多摩市のようになっていて、たくさんの分館がある。中央館に小さな分館が直接ぶらさがるタイプもある。多摩市にとってどういうものがよいのか考えていかなければならない。

チャートに「サービス」がなぜ無いのかと思っていましたが、説明でわかった。サービスを支えるいくつかの要素に分解して検討するということだが、この作り方で心配なのは構成主義になっていないかということ。サービスを支えるための要素には、資料・人・組織・市民などさまざまなものがある。全てがうまくいってサービスとして浮き上がる。このチャートに入らずに残ってしまう項目があるかもしれない。うまくサービスの必要要件が浮き上がるように作業ができればよいと思う。

委員： 拠点館と地域館の違いということだが、資料4の3ページにある10万人規模の自治体では中央館があり、分館があるということで多摩市と共通している。多摩市は中央館を最後につくることになったが、駅に近いところに中規模館があるという事例もある。多摩市は谷戸が多い地形なので地域館ができたのかもしれない。中央館ができて各館の必要性は変わらないのかなと思う。

行動プログラムで、拠点館を充実させるかわりに、地域館は我慢するというプランにされて、都合よく使われたように思う。浦安市のように、大きな本館と小さな分館という運営もよいか考えていく必要はあると思う。

委員長： 事務局から拠点館について議論をするような会議次第を受けているが、地域館・拠点館に分けて議論する必要はあるのか、皆さんからも意見をうかがいたかった。

委員： この委員会は本館再構築基本構想を策定するもので、考える順として、第一に本館の機能について議論するべきで、それから地域館と拠点館がどうあるべきか、あるいは統合できるかを議論するのが正しいのではないか。

委員長： チャートの縦軸が、地域館・拠点館・本館・全域奉仕の順になっているのはなぜか。本館から考えた方が議論が整然とするのではないかと思う。

コンサルタント： 他自治体の基本構想をつくる場合は、ほとんどが公民館などに複合された小さな分館ばかりがある中でいよいよ中央館をつくるので、アウトリーチサービスはどうしようか等という検討が始まる。図書館システムそのものがよく理解されていないくて、経験がない場合は、チャートの順は中央館が一番上になるだろう。

多摩市は中央館を作る順が最後になったが、ほとんど全ての図書館サービスを行っているので、他の自治体とは考え方が違うように思う。多摩市は地域館から作り始めたので、今の本館は残念ながら「ちょっと大きな地域館」くらいに、市民から思われている。

この度の基本構想では「私達の身近な図書館から考えてほしい」という声があったので、現状の課題整理は、想像のなかの図書館ではなく、普段使っている図書館から今のままでよいかという順に考えるべきだろうと思った。多摩市ならではの順番だと思う。本館再構築を考えるときは、全域奉仕が一番上にあり、地域館が下の順になると考える。

鈴木委員の意見のように、現状の課題整理も全域奉仕が一番上でもよいが、指示のとおり修正する。

委員長： 「多摩市本館再構築基本構想」を策定するというので、中央図書館が最大テ

一マ。それを議論してから地域館・分館を議論すべきかと思う。多摩市にはこれだけの図書館があるから再確認したうえで、というのは理解できるが。

委員： 資料4の3ページ目にヒントがあると思う。多摩市と浦安市の比較がある。多摩市の貸出数は拠点館がその多くを担っている。浦安市は圧倒的に中央館の貸出が多い。

貸出数という重要な統計数字から言えば、多摩市の図書館サービスは日本の上位にいて、地域館と拠点館でサービスがカバーできている。現状の数字から言えば、中央館でこれ以上何をするのかということになる。ヒアリングにヒントがある。問題はこれから創っていく新しい図書館で潜在的なニーズに答えていくことで、市民も気づいていないニーズに答えるのが中央図書館の役割。現状のサービスに隠れていてわからないものを煇りだしていく作業が重要だ。

委員長： 多摩市と浦安市の比較には、刺激的な数字が見られる。現状を再確認することは大切だ。

こだわわるわけではないが、中央館をこれからどうしていくのか考えないとならない。それぞれの図書館が役割を果たしているが、かつて想像しなかったスピードで高齢化が進んでいて、拠点館・地域館の役割は大きい。本館と併行して考えなければならないが、まずは本館についてのキーワード探しから議論していくほうがよいと思うが、意見はあるか。

委員： 今まで地域館を使ってきたものとしては、地域館から見て中央館をどうしてほしいというほうが考えやすい。

ヒアリングでもいま使っている図書館への思いや要望がたくさん出ている。地域館でこういうことをやっていたけれど、中央館ではこんなことをやってほしいと考えた方が、私はまとめやすいように思う。

委員： 他の地域の図書館では、スターボックスを運営しているとか、この分類でいいのとか、武蔵野市の図書館がいいとか、いろいろ出てくるが、多摩市はどんな図書館がほしいのか、ということが大切。市民の期待・要望・夢があるはずだ。

乱暴に言えば、図書館システムや機能は今一番良いとされているものを採用すれば良い。ヒアリング対象者は図書館に詳しく存続運動に携わった人も多い。

私としては、都内に働きに行っている間に市役所の隣の中央館がある日なくなってしまうということがショックで、中央館図書館がない市とは何なのか、根本的な疑問を持っている。多摩市民の誇りになるような図書館がほしいと個人的には思っている。そういう議論をしたい。

貸出冊数を比較すると、浦安市は中央館が100万冊を貸し出している。分館の規模の議論もあるだろうが、多摩市は中央館がないからこんな数字になっている。

本館再構築基本構想なので、常世田委員や松本委員に知識をいただいて、理想的な図書館というのはどういうものか、まず中央館から考えたい。併行して地域館・拠点館はどういう機能となるか考えればよいのではないか。地域館を廃止するという問題はなくなった。中央館の議論をしてみたい。魅力的なことだ。

委員： 多摩市は市民のうち21%の人が本を借りている。普通の自治体は10%までいかない。ちなみに浦安市でも27%。拠点館をすこしリニューアルすればもっと利用が上がるだろう。中央館の整備をすれば、参考になる自治体は国内にはなくなる。誰も踏み込んでいないレベルに入る贅沢な悩みで、足りないものを何とかするという議論ではない。もちろん、大勢いる司書がもっと活性化すれば新しい図書館の起爆剤になる。市民も自覚していないが、やりがいのある贅沢な議論に参加しているように思う。

青木委員の意見のような市民活動機能の複合は、大学図書館で言えばラーニングコモンズのようなもので、そのような中央館ができればよい。今は突飛に思うかもしれないが、あと10年すればあたりまえになるようなものを多摩市が先駆けてやることになる。

働き盛りの人への高度なレファレンスサービスもできるようになればよいだろう。自分の仕事、親の介護、子どもの教育、ローンなど大変な世代。そういうことを図書館が支えられるようなサービスができる中央館のイメージもあると思う。

委員長： だいたいの議論は出たように思う。

辻山委員の意見では、地域図書館から考えたいということだった。地域館にこれがない、拠点館にこれがあれば、というような議論をやっていくと「中央図書館はなくてもいいかも」ということになってしまうかもしれない。これは冗談ですが、議論がしばむ可能性はある。リレーシンポジウム「知の地域づくりフォーラム」でも話題となったが、知の地域づくりを考えたときに中央図書館は必要で、中心を形づくるということは大切なことだ。

結果的に同じようになるとしても、チャートは、全域奉仕を上にして順序を変えるとよいと思う。不都合なことはないか。

事務局： 不都合はないと考える。

私は、常世田委員が言われたように何もすることはない、とは思っていなくて、近隣自治体の中央図書館を見て、25万冊を選んで配架するところなるのか、と思っている。そういった中央図書館を、この委員会で検討していただきたい。現状の多摩市の図書館ネットワークをふまえたうえで中央図書館を考えていただきたいということで、第3回までやってきた。4回以降は新たな本館について、本格的に議論をすすめていただきたいと考えている。今後、チャートのマトリックスを埋める作業をやっていくことになる。

本日は拠点館についての議論を次第に載せていたが、ヒアリングでも地域館への思いに比べて拠点館ということではなかなか意見が出てこないの、この委員会でも難しいのかと思う。チャートは修正をしてご提示する。

次回以降は、本館について議論・提案していただこうと考えている。

委員長： チャートについては、この構成を議論するわけではなく参考にするものなので、つくりが議論の順にできていれば良いと考える。

ヒアリングからは拠点館と地域館の違いはあまりでてこないように思う。身近にある図書館がどうなってほしいか関心があるようで、行政的な扱いの違いは市民の意見からは見えてこない。各委員、ヒアリング記録を精読されて考えておいていただきたい。

議事1(3)は、いまの議論でよいかと思う。まとめは次回以降で確認したい。

2. 多摩市の図書館サービスシステムの経緯

委員長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： 多摩市の図書館サービスシステムの経緯について説明する。この資料を踏まえて次回以降の議論をしていただければと思う。資料8をご覧ください。

○多摩市図書館システムの「図書館費・職員数」の推移

- ・平成12年から平成26年まで概ね5年ごとの推移を表にしたもの。
- ・図書館費の内訳は、人件費・図書購入費・運営経費(事務経費と図書購入費以外)
- ・比率は図書館費のうち各経費の割合を示している。
- ・職員の欄は常勤職員、再任用職員、嘱託職員、臨時職員・非常勤一般職の

構成で各人数を示している。

- ・二重丸と矢印が表に記載されている。平成12年と26年を比較して着目する項目に印がついていて、大きく変化したものに矢印が2本ついている。

○多摩市図書館システムの「8館(7館1分室)の利用者数」推移

- ・平成12年から平成26年まで概ね5年ごとの推移を表にしたもの。

- 多摩市を構成する地域ごとの「登録率・利用率」から図書館サービスを見る
 - ・多摩市全体としては人口微増、利用者数・登録率は微減傾向にある。
 - ・地域ごとに見ていくと、人口増・利用者増、人口減・利用者減など地域ごとに違いがあり、今後分析する必要がある。

○多摩市と類似都市ライブラリーシステムにおける駅前拠点館クラスの「職員1人あたり貸出数」比較

- ・多摩市において拠点館の位置づけである永山図書館・関戸図書館と、他自治体の駅前同規模館で、職員1人あたりの貸出数を比較する。
- ・活動が活発な図書館で、職員1人あたりの平均年間貸出数が35,000冊というのが健全かつ上限と観察されているようだが、表の平均が1人あたり29,300冊で関戸図書館が2,0800冊で永山図書館が24,400冊ということで、多摩市の拠点館の職員配置は数字上では工夫の余地があるように見える。
- ・近隣都市では町田市の金森分館、鶴川駅前分館が、多摩市の図書館再編成の研究モデルになると考えられる。関戸・永山図書館と同規模で職員配置も類似している。開架は1.5倍広く運営負担は大きそうだが、利用の停滞や減少に対策と魅力化を必要としていると思われる拠点館の再編制整備の研究モデルにならないだろうか。

○多摩市と類似都市ライブラリーシステムにおける地域館クラスの「職員1人あたり貸出数」比較

- ・多摩市における地域館の位置づけである東寺方・豊ヶ丘・聖ヶ丘・唐木田図書館と他自治体の同規模館で、職員1人あたりの貸出数を比較する。
- ・東寺方・豊ヶ丘・聖ヶ丘・唐木田図書館の職員1人あたりの貸出数を平均すると17,700冊で同規模館平均が21,200冊。地域館においても職員配置の工夫の余地があると思われる。
- ・近隣都市では日野市、三鷹市、西東京市の分館が多摩市の地域館と同規模ながら貸出数に大きな開きがある。職員1人あたり貸出数と常勤職員数から少人数での効率的運営が覗え、研究モデルにならないだろうか。

○多摩市と浦安市ライブラリーシステムにおける施設規模と職員配置、職員奉仕密度の比較

- ・職員数は同規模だが職員1人あたり貸出数は浦安市が多い。蔵書数にも開きがある。
- ・浦安市には多摩市のような拠点館はなく、小さな分館が多数ある。多摩市の地域館よりも規模は小さいが貸出数が多い。それを多摩市と同数あるいはもっと少ない人数で回している。
- ・多摩市は浦安市と人口・財政規模が違うが、図書館費は似通った数字。
- ・図書館費の内訳が違って、多摩市のほうが人件費は多く、資料費は浦安市の半分くらいとなっている。(小さな違いが10年開架室に降り積もると、大きな資料世界の差が、図書館の違いをつくっていく。)

委員長： 多摩市立図書館の財政データやサービス比較について説明していただいた。意見はあるか。

委員： 浦安市のサービスについて補足させていただくと、児童サービスで「出前おはなし会」ということをやっていて、正規職員が小中学校、保育園、幼稚園、病院

などで年間1,000回、2万人の子どもたちにおはなしを届けている。
事務量として加えて考えていただければと思う。

委員： 多摩市の職員数で常勤職員・嘱託職員などの分類があり、だんだん嘱託が増えているようだが、司書の人数はどのようになっているか。

事務局： 常勤職員における司書の割合は52.3%。嘱託職員の司書割合は100%。

委員： 常勤職員より嘱託職員に司書が多いということか。

副委員長： これは重要なご指摘。浦安市は司書採用の職員が働いている。多摩市の職員の司書割合は全国平均では平均的だが、専門的な正規職員の採用や職員をどう動かしていくか、基本構想で検討する必要があると考える。

委員長： 専門職については、ヒアリングでも意見が出ている。

その他、意見がなければ本日の議事を終了する。

今回の視察、委員の感想もキーワードに含めていただければと思う。また、これからの検討に貴重なデータを提示していただいた。こういった作業を精力的に行われた事務局にお礼を申し上げたい。